

## 1. 秋の大会

11月15, 16, 17日に秋の大会が東京で行われる予定。  
講演申込のしめ切は10月15日。

## 2. 原水爆関係報告会

世界の世論に対して現在も原水爆実験が行われているのにかんがみ、秋の大会にはその一部として原水爆関係の報告をまとめて行うことに常任理事会で決定した。

## 3. 75周年記念事業

日本気象学会創立75周年記念事業の計画は伊東理事、肥沼理事を中心にして進められているが、次の事業を行うことに常任理事会で決定した。

- 1) 日本気象学会創立75周年記念式典
- 2) 同記念講演会
- 3) 日本気象学会史刊行
- 4) 75周年記念論文集（欧文篇，和文篇）刊行（論文募集中）
- 5) その他

また、これに要する寄付金を広く募集することが常任理事会できめられた。

## 4. 学術会議選挙

本年の第5号の学界消息に書かれたように、本年12月10日に日本学術会議第4期会員の選挙が行われる。立候補および候補者推薦は9月21日から10月5日までの間に手続きが取られ、10月7～9日頃候補者は官報で公示される。本年は候補者公示前には選挙運動は禁止され、また選挙後も選挙運動は甚だ制限されており、これにふれると制裁を受けるので注意する必要がある。詳しくは選挙説明書を御覧下さい。

本学会は学会として候補者を推薦すべきか否か、推薦する場合、1名にするか2名にするか、が8月4日の常任理事会で論ぜられた。その結果、きまったことは

- 1) 次の選挙に際しては、もっと早目に協議すること
- 2) 今回は、推薦候補手続きが迫っているので、地方理事を含めた理事会員（理事長を除く）による無記名投票によって、次のことをきめる。

- イ) 推薦候補者の数を1名とするか2名とするか
- ロ) 1名の場合、2名の場合に対する被推薦者
- ハ) この常任理事会のきめ方に不賛成の票が多ければ、今年は推薦候補者を本学会としては出さない
- ニ) このようにしてきまった推薦候補者の氏名は機関誌に報告として記載する。

## 5. 気象審議会

気象庁のし間機関として、気象審議会が作られる予定で、これは、気象庁外の学識経験者によって構成されることであるが、その委員として学会を代表する学会推薦者をも加えることを、理事長を通じて、気象庁長官に申入れたところ、これが了承された。

## 6. 気象学史と気象教育についての講演会および討論会開かる。

去る8月24日気象庁内気象研修所第3教室において、表記の講演会および討論会は遠く長野県や茨城県からはせ参じた先生方もまじえて、熱心な討論がくりひろげられ、気象専門家の気象教育に対する協力が求められた（会の模様は近い中に天氣に掲載されることになっている）。

## 編集後記

8月も半ばを過ぎ、心配されるような涼しさが急におとずれてきた。新聞では今年も豊作といっているが、北日本の稲作ははたしてどんなであろうか。

今月号から降水要素の成長過程についてのシンポジウムが掲載される。来月号には“中央の資料が入手して”と題する座談会記事と、島山理事長の“人工降雨に関する会議”（アリゾナ大学）に出席された報告が掲載される予定です。そのほか興味ある論文がいろいろ会員から寄せられ、一時論文を集めるのに苦労したことも夢のような気がする。今後ともどしどし投稿され、学会誌を守りたてられるようにお願いします。

